令和４年度秋学期 科目レベルの学修成果の査定結果

令和５(2023)年３月 31 日公表
滋賀文教短期大学

１．科目レベルの学修成果の査定

本学アセスメント・プランに基づき、毎学期実施している授業アンケートで学生に質問している重点到達目標に対する到達実感度と、科目 GPA の２点を用いて、査定表において 10 段階で評価します。

毎学期終了後、科目担当教員が授業アンケート結果と科目 GPA を参照し、次年度のシラバス作成や授業のさらなる質向上に役立てます。

査定材料：学生の授業における到達実感度（下記①②の合計割合）

【設問】授業アンケートの設問「あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。」

*シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマ・ポリシーがカリキュラムマップ上で最重要と指定するうちの１つ

【回答選択肢】①達成できた　②おおむね達成できた　③達成できなかった

査定材料：科目 GPA

{(当該科目の各評価の GP × 当該科目の各評価を受けた人数) の合計} ÷（当該科目の全履修者数）

２．令和４年度秋学期の科目レベルの査定結果

令和３年度より、到達実感度 60%以上かつ科目 GPA2.00～3.00 を望ましい水準とし、すべての科目を絶対評価にて評価しております。

【科目数】今学期の査定対象全 71 科目中、合計 59 科目が望ましい水準で授業運営されています。

到達実感(%) / 科目 GPA	100～80	79～60	59～45	44～20	19～0	合計 (科目 GPA)
2.00～3.00	**58**	**1**	0	0	0	59
0～1.99 又は 3.01～4.00	12	0	0	0	0	12
合計(到達実感)	70	1	0	0	0	71

【科目割合】今学期の査定対象全 71 科目中、合計 83.1%が望ましい水準で授業運営されています。

到達実感(%) / 科目 GPA	100～80	79～60	59～45	44～20	19～0	合計 (科目 GPA)
2.00～3.00	**81.7%**	**1.4%**	0%	0%	0%	83.1%
0～1.99 又は 3.01～4.00	16.9%	0%	0%	0%	0%	16.9%
合計(到達実感)	98.6%	1.4%	0%	0%	0%	100.0%

*小数点第二位の四捨五入により割合の計算に一部ずれが生じ、合計が 100%ちょうどにならないことがあります。

*科目数は、複数学科学年が同一時間に一斉に受講する授業、少人数教育のためグループ別に実施するが同一シラバスの授業は合算します。

３．科目レベルの査定表

科目レベル 学修成果の査定					
成績基準＼達成度	※達成度は、授業アンケート到達目標の達成度「達成できた」「おおむね達成できた」の回答の割合で査定 。				
	80%以上～100%	60%以上～80%未満	45%以上～60%未満	20%以上～45%未満	0%～20%未満
科目GPA 2.00以上～3.00以下	履修学生は、到達目標に到達したと実感している。科目GPAも標準内にある。到達目標と成績評価方法・基準は、関連性があり、適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、更に到達目標の内容を引き上げ、レベルアップにつなげることも可能である。 ←――望ましい水準――→	おおむねの履修学生は、到達目標に到達したと実感し、科目GPAも標準内にある。よって、到達目標と成績評価方法・基準は、適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、到達目標の内容をさらに学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。	約半数の履修学生が、到達目標を達成したと実感し、科目GPAも標準内にある。よって、到達目標と成績評価方法・基準は関連性があり、おおむね適切に設定されている。 ◎次年度にむけては、半数近くの履修学生が到達目標に到達したと実感していないため、学生の達成度を上げる必要がある。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度が測定可能な内容にする。	約半数の履修学生が到達目標を達成していないと感じている。科目GPAについては、標準内にあるが、学生の達成度が低い傾向にあるため改善が必要である。 ◎次年度にむけては、学生の達成度を上げる必要がある。 ・到達目標と成績評価方法・基準を関連性のある内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度が測定できる内容にする。 ・到達目標は、難しすぎる設定になっていないか（学生に合致した内容にする）。	履修学生は、到達目標を達成していないと感じている。科目GPAについては、標準内にあるが、学生の達成度が低いため改善が必要である。 ◎次年度にむけては、下記の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準を関連性のある内容にする。 ・授業内容は、到達目標を意識して構成する。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすい具体的な内容に設定する。 ・到達目標は、達成度を測定できる内容にする。 ・到達目標は、難しすぎる設定になっていないか（学生に合致した内容にする）。
上記以外の 科目GPA数値	履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標や成績評価方法・基準は、簡単すぎる内容または難しすぎる内容になっていないか（学生に合致する内容にする）。	おおむねの履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標や成績評価方法・基準は、簡単すぎる内容または難しすぎる内容になっていないか（学生に合致する内容にする）。	約半数の履修学生は、到達目標に到達したと実感しているが、GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・GPAが低い傾向にある場合は、到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか（学生に合致する内容にする）。	約半数の履修学生が、到達目標に到達していないと感じている。また科目GPAに偏りがある。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 【共通：GPAが高い・低いどちらの科目にも共通】 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすく具体的な内容に設定する。 【科目GPA数値が標準より高い場合：GPAが高い】 ・GPAは高いが達成度は低いため、授業内容・指導方法は到達目標を意識して構成する。 【科目GPA数値が標準より低い場合：GPAが低い】 ・到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか（学生に合致した内容にする）。	履修学生は、到達目標に到達していないと感じている。また科目GPAが標準外である。 ◎次年度にむけては、以下の改善が考えられる。 【共通：GPAが高い・低いどちらの科目にも共通】 ・到達目標と成績評価方法・基準は、関連した内容に設定する。 ・到達目標は、測定可能な内容にする。 ・到達目標の内容を学生が理解しやすく具体的な内容に設定する。 【科目GPA数値が標準より高い場合：GPAが高い】 ・GPAは高いが達成度はかなり低い。授業内容・指導方法は到達目標を意識して構成する。 【科目GPA数値が標準より低い場合：GPAが低い】 ・到達目標や成績評価方法・基準が難しい設定となっていないか（学生に合致した内容にする）。

アセスメント・プラン　https://www.s-bunkyo.ac.jp/guide/info/result